

SOAP記録を活用した園内研修による保育者の変容

中島 寿子

Perspective Shift of Early Childhood Educators through In-school Training Using SOAP Records

NAKASHIMA Hisako

(Received JULY 31, 2024)

キーワード：保育プロセスの言語化、SOAP記録、園内研修

はじめに

現在、世界的に幼児教育の質が問われており、「幼児教育の質の向上について（中間報告）」(2020)においても、子どもの発達や学び、実践の意図やねらいを言語化して、家庭・地域にも発信すること、研修の充実等によって資質向上を図ることの重要性が指摘されている。保育者を対象とした調査においても、資質向上のために必要なことについての回答の上位に「園内研修の内容の充実」が挙げられている（ベネッセ教育総合研究所，2019）。

そこで、筆者は保育の言語化を促進するために、省察を促進するALACTモデル(Korthagen et al., 2001)における「具体化を促す問い（8つの問い）」と保育プロセスの意識化を促進する視点SOAP（河邊，2019ab）を取り入れた園内研修を実施した（中島，2023）。その成果と課題は以下の通りである。

（成果）

- 園内研修でエピソード記録を取り上げ、「取り上げた理由」「話し合いたいこと」も語ることは、保育者の問題意識の明確化を促した。その日には十分に書けなかったこと、その後の子どもの姿や自分の保育について考えて語る機会にもなった。自分の問題意識をふまえた話し合いの中で、自分が知らない子どもの姿、自分にはない子どもの見方も知ることで、様々な気づきも得られた。
- 保育を見ていない筆者からの質問に答えて語ることを繰り返す中で、子どもの姿や自分の保育について第三者にも伝わるように言語化することの大切さを実感し、記録の書き方も他者に伝わりやすくなった。
- 記録をもとに「子どもの姿（S）」「読み取り（O）」「保育者としての願い（A）」「そのための環境構成（P）」についてさらに語ることで、保育者としての意図や思いの言語化が促進された。「読み取り（O）」について考える際には、ALACTモデル（Korthagen et al., 2001）における「本質的な諸相への気づき」に近づくための「具体化を促す問い」の活用も、子どもの視点から考えることを助けた。
- 園内研修を重ねる中で、子どもの育ちや変化に着目して話し合うことが増え、保育者全員でその子どものことを見ていこうとする姿勢が強められた。
- 園内研修後のポートフォリオ記録作成は、保育者が継続的に自己評価の視点をもつことを助けた。

（課題）

- 「読み取り（O）」から「願い（A）」「環境構成（P）」を具体的に考えて言語化することは難しく、保育者自身も課題と捉えていた。今後もSOAPの視点を取り入れた記録を書き続け（河邊，2019b）、その記録をもとにした園内研修も続けていくことが必要であると考えられた。
 - 記録に写真を活用することで、その場面の理解や「読み取り（O）」もしやすかったが、子どもに焦点化された写真が多く、環境について考えるための記録としての写真の工夫も課題となった。
- 以上の成果と課題をふまえ、本研究ではこの園内研修を引き続き実施し、保育の言語化を促進するための園内研修の進め方についてさらに検討する。そして、園内研修に取り組む中で、保育者がどのように変容していくのかを明らかにする。

1. 研究の目的

本研究は、保育の言語化促進のために取り組んだ園内研修（中島，2023）の成果と課題をふまえて、引き続きこの園内研修に取り組み、効果的な進め方についてさらに検討すること、園内研修に取り組む保育者がどのように変容していくのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

2-1 研究協力園

協力園は前年度と同じ、3歳児クラス、4歳児クラス、5歳児クラス、各1クラスの私立幼稚園である（以下X園とする）。園長はX園で担任保育者として保育経験があり、他園での保育経験も経てX園の園長となり、18年目である。保育者は以下の5名であり、担任クラスは前年度と同じであった。

3歳児クラス：主担任A先生（保育経験4年目。前年度に初めて主担任となる。）

副担任B先生（保育経験12年目）

4歳児クラス：主担任C先生（保育経験4年目。前年度に初めて主担任となる。）

副担任D先生（保育経験22年目。他クラスで特に支援が必要な子どもの保育も担当する。）

5歳児クラス：主担任E先生（保育経験9年目）

2-2 園内研修の方法

前年度と同様に、年間を通して園内研修を5回実施した（1回の所要時間は2時間半程度）。

第1回から第4回は、保育者が取り上げたエピソード記録をもとに話し合いをした（表1参照）。

第5回では、事前にレポートを作成した上で、園内研修の中での自分の変化や課題について語り合った。

表1 園内研修の流れ（第1回から第4回）

テーマ	保育記録をもとに子どもの育ちと保育について考える
日々の保育	○保育者がその日の「いいな」「素敵だな」と思った子どもの姿について、以下のようにまとめる。 ・取り上げた場面の子どもの写真、日にち、子どもの氏名、エピソード名 ・S(子どもの姿)を書き、O(読みとり)、A(保育者としての願い)、P(そのための環境構成)の順に考察を書く。
園内研修	○保育者が取り上げたい記録を持ち寄り、「この記録を取り上げた理由」「話し合いたいこと」もふまえた話し合いをする。可能な場合は園長も参加する。 ○筆者は「具体化を促す問い(8つの問い)」（Korthagen et al., 2001）とSOAPの視点（河邊, 2019ab）を整理したレジュメ（表2参照）を配付し、保育者が子どもの視点から省察し、子どもの姿をもとに保育を考え、その考えを言語化することを促進するための支援をする。 ○話し合いの内容はICレコーダーで記録し、逐語録を作成する。
園内研修後	○保育者が「気づき」「気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか」をまとめたポートフォリオ記録を作成する（表3参照）。 ○逐語録をもとに作成した園内研修記録は、保育者にも渡す。 ○園内研修記録とポートフォリオ記録をもとに、次の園内研修の内容について計画する。

表2 「具体化を促す問い（8つの問い）」とSOAPの視点

1. 私は何をしました？	doing	5. ○ちゃんは何をしました？	← S(幼児の姿)	↓
2. 私は何を考えていた？	thinking	6. ○ちゃんは何を考えていた？		
3. 私はどう感じていた？	feeling	7. ○ちゃんはどう感じていた？	← O(読みとり)	
4. 私はどうしたかった？ (何を望んでいた？)	wanting	8. ○ちゃんはどうしたかった？ (何を望んでいた？)		
			A (どのような経験をしてほしいか)	↓
			P (そのために どのような 環境構成・援助をしていきたいか)	↓

表3 ポートフォリオ用紙の様式

日付	気づき	気づきを今後の保育にどのようにいかしていきたいか	備考
○月○日(○) 第1回園内研修			
○月○日(○)			

筆者は前年度の園内研修の課題もふまえて、以下の点を特に考慮するようにした。

- ①「読み取り(O)」から「願い(A)」「環境構成(P)」を具体的に考えて言語化できるように
 - ・「読み取り(O)」をもとに「A(願い)」を丁寧に話してもらい、筆者が理解したことも言葉にして確かめていく。その内容もふまえて「環境構成(P)」についてもさらに一緒に考えていく。
- ②園内研修と日々の保育が循環していくように
 - ・園内研修の始めに前回取り上げた記録と話し合いの内容、ポートフォリオ記録に書かれていたことを紹介し、それまで考えてきたことや実践したこともふまえて取り組めるようにする。
 - ・それまでに取り上げた記録や話し合いの内容にも触れながら、話し合うようにする。
 - ・園内研修で考えたことをもとに環境構成を試してみたことで、どのような気づきがあったかも尋ねる。
- ③記録の写真について工夫できる点を考えられるように
 - ・遊びや環境構成について考えるためにどのように記録するとよいか、一緒に考えていく。

2-3 考察の方法

園内研修で取り上げられた記録、園内研修での話し合いの記録、ポートフォリオ記録、次年度に実施した保育者へのインタビュー記録をもとに、保育の言語化促進のために効果的な園内研修の進め方について考察する。園内研修に取り組む中での保育者の変容についても考察する。

なお、本研究については、本学の学内委員会で倫理審査を受けて承認を得ている。

3. 園内研修の実際

園内研修の実際について、同じ子どもを取り上げることが多かった3歳児クラス担任保育者A先生、B先生の記録をもとにした話し合いを中心にまとめ、保育の言語化促進のために効果的な園内研修の進め方と、園内研修に取り組む中での保育者の変容について考察する。

3-1 第1回園内研修(5月)

A先生は、赤ちゃん人形を本当の赤ちゃんのようにかわいがって世話をするA男の姿を取り上げ、この人形での遊びが充実するにはどのような物を取り入れるとよいか聞きたいと語った(【事例1】)。「願い」にある「愛着を持って大切にぽぽちゃんを扱ってほしい」について補足してもらおうと、A先生はぽぽちゃんをかわいながら友達とも一緒にごっこ遊びを楽しんだり、違う遊びに発展して行ってほしいと語った(下線部)。他の保育者もA先生の「願い」を一緒に理解するために質問し、A先生はその質問に答えながらさらに考えていた(下線部)。筆者はA先生に今語った願いをもとに環境を考え、子どもの姿からさらに考えていくとよいのではないかと伝えた(下線部)。

B先生は、絵の具で絵を描いた時に「すごいねー」と言いながら楽しむB男の姿を取り上げた(【事例2】)。そして、D先生からB男の日頃の姿について尋ねられると、「設定保育的な場面」では「やりたくない」と言うことがあるが、この日は朝から用意した物に興味を示し、すぐ描き始めたことから、「こういうことがすきなんだなって発見」があり、「自由っていうところが彼には合ったのかな」と語った(下線部)。

「環境構成」には「来月も同じように活動をやってみて」と書かれていた(下線部)。また、外遊びの環境に造形コーナーを設けることにも触れ、B男の姿からどのような「読み取り」ができるかを聞きたいと語っていた。そこで、筆者はB男がどのような楽しさを味わっていると読み取るかで、願いや環境構成も違ってくることを確認し、他の保育者にも話してもらった。その中で、D先生から子どもが興味をもつ環境を構成し、その環境構成を続けて子どもの姿の変化を見ていくと面白いのではないかとという案が出た(下線部)。この案もふまえ、筆者もB男がやりたい時に取り組める環境を用意し、自分からどのように取り組むかを見てみると

よいのではないかと伝えた。記録に写真を活用しているので、その環境を記録していくことも提案した（下線部）。

【事例1】 第1回園内研修から（3歳児クラス担任A先生の記録をもとにした話し合い）

取り上げた理由	本当の赤ちゃんみたいにぼぼちゃん ^注 をお世話をする姿がすごくかわいらしいと思った。
話し合いたいこと	みんなすきなぼぼちゃんの人形の遊びが充実するには、どんな物を取り入れたらよいか等
<記録>	4月10日 A男「赤ちゃんかわいい!」（写真：A男がボボちゃんを抱っこして部屋の中を「散歩」している場面）
S 子どもの姿	（前略）ぼぼちゃんの人形で遊んでいたA君。大事そうに抱っこして部屋の中をお散歩したりミルクをあげたりしていた。（中略） 保育者のところにおんぶ紐を持ってきて「おんぶしたいからやって～」と言った。それからぼぼちゃんをおんぶしたまま積み木で遊んだA君は（中略）次は自分の服をまきあげておっぱいを飲ませていた。A君なりに一生懸命お世話を楽しんでいた。
O 読み取り	A君には赤ちゃんの妹がいるので、お母さんの真似をしてお世話をしているのかなと思った。家でよくお世話しているところを見るんだと思う。（中略）自分の妹に重ねてかわいがっているのかなと思った。
A 願い	愛着を持って大切にぼぼちゃんを扱ってほしい。
P環境構成	今みんな「赤ちゃん」と読んでいて、名前をつけてみるとより愛着がわくかなと思った。
<記録をもとにした話し合いから（一部）>	
N：願いのところで、簡潔に書いてありますけど。もうちょっと補足ってありますか？	
A：A君はすごくぼぼちゃんのことをすきで、すごくかわいがっているんだらうなって思うんですけど。その思いをもって、引き続きぼぼちゃんですごい遊びをしてもらいたいなって。 N：それはなぜ？	
A：ぼぼちゃんのごっこ遊びをする中で、友達と話しながら遊んだり、違う遊びに発展していったりして欲しいな。 N：その願いによって、具体的な環境構成も変わってくるので。（ままごとコーナーの2体のぼぼちゃんを見て）素朴な疑問なんですけど。洋服まで全く一緒っていうのが。どっちがどっちかわかんない。今「赤ちゃん」って？	
A：みんな「赤ちゃん」って呼んでます。D：ぼぼちゃんを通して、友達との関わりを増やしていく？ A：はい。	
B：っていうのがA（願い）になるってこと？ A：そう。確かに。そう考えたら…	
N：そういう願いがあるんだらうたら、そのためにどういう環境をごっこ遊びで考えてみるといいのかな。やってみて、これがどうもいいみたいとか、また考えてみるのもいいのかな。	

注) ぼぼちゃん：保育室のままごとコーナーにある赤ちゃん人形。 A・B・C・D・Eは担任保育者、Nは筆者。以下同じ。

【事例2】 第1回園内研修から（3歳児クラス担任B先生の記録をもとにした話し合い）

取り上げた理由	外遊びの環境で造形コーナーを設けることになり、先日初めて設けた。こんな姿があったと知ってもらいたい。
話し合いたいこと	この姿を見てどう思ったか、それぞれの先生の読み取り等
<記録>	4月28日 B男「色が変わった!？」（写真：B男が床に置いた大きな画用紙に、筆で絵の具を塗っている場面）
S 子どもの姿	（前略）画用紙に3色（赤・青・黄色）の絵の具を使い、自由に絵を描く。（中略）B君はすぐに筆をとり、描き始める。 最初は、赤色で画用紙の真ん中に大きくぐちゃぐちゃと描く。「うわ～すごいね～」と言いつつ画用紙いっぱい描いていく。次に、黄色の筆をとり、赤色の上にくちゃぐちゃと描く。その間も「すごいね～」とつぶやいている。次に青色の筆をとり、色のついたところに重ねて塗っていく。すると、色が混ざって紫色になる。B君は（中略）「色が変わった～すごいね～」と驚きの声をあげる。保育者（自分）も一緒に「色が変わったね～B君すごいね!」と話す。その後、しばらく青色で塗ることを楽しんでいた。
O 読み取り	朝（中略）絵の具を見て「これなに?」と聞いていたので、今日は絵の具で絵を描くことを説明した。その時に「B君やってみたい?」と聞くと「うん!やりたい!」と意欲的に返事が返ってきた。（中略）保育者が「どうぞ」と言うと、すぐに絵を描き始めた。（中略）開放的に活動に取り組んでいる様子がかうかがえた。「すごいね～」とずっとつぶやいていたが、色が変化した時には特に大きな声で（中略）驚きの表情だった。意図的でないからこそ、変化に気づいた時の発見が面白かったのだと思う。
A 願い	絵を描くことが楽しいと思う気持ちの芽生えや育ち
P環境構成	（前略）来月も同じように活動をやってみて、今回経験したからこそ違う姿が見られるかもしれないので様子を見ていきたい。
<記録をもとにした話し合いから（一部）>	
D：日頃がわかんない。	
B：やんちゃだし活動的なんだけど。設定保育的な「じゃあこれしましょう」とか始まると「やりたくない」って言うことがある。でも、この時は朝から用意している物を見て興味を示して。この活動が始まった時もすぐ描き始めていたので、こういうことがすきなんだなって発見と、自由っていうところが彼には合ったのかなと。	
N：こんな楽しさを味わっているんじゃないかって読み取りが違えば、じゃあさらにということも少し違うかも知れないですね。	
A：やっぱり規制がないことの方がすき（その後、A先生は大きな紙、C先生はローラー、E先生はダンボールという案を話す。）	
D：やっぱり自由に描けたことの楽しさと、色の変化をすごく楽しんでたのかな。朝来た時に準備してあることで、これ何するんだらうってところから、やりたいという気持ちがあつて、それが出来た喜びがさらに感動を上乘させたのかな。目に見える所に準備しておくことも大事なんだなって。環境構成として続けていくのも面白いな。そこでどういう変化が見えるか。	
N：先生達が設定した次の時じゃなくて、やりたい時にやれる。（園長も、そのために外での造形コーナーを提案したと話す。）	
N：実際にこの人が自分から何をするかを見るのが一番よくわかる。 B：自分で動いてやってみた時のですね。	
D：自分で選択するってことですね。 N：写真撮ってるんだらうたら、それを残していくと…	

3-2 第2回園内研修（7月）

第2回でも、A先生は室内での遊び、B先生はクラスの活動の中での子どもの姿を取り上げたが、4歳児クラス、5歳児クラスの保育者は、生き物と関わる子どもの姿を取り上げた。4歳児クラスC先生は、ダンゴムシの赤ちゃんが生まれたことを発見し、虫眼鏡で一生懸命見ながら「(みんなで見た)絵本の通りだったね」と喜ぶ子どもの姿を取り上げ、「育てた中で発見したことをみんなに教えてあげてほしい」と語った。そのため、飼育している虫をクラスのみみんなでよく見ることができる環境づくりについて話し合った。

5歳児クラスE先生は、サナギが蝶になる瞬間を見て心が動き、飛び立つまで関心をもって見届ける子どもの姿を取り上げ、「命について改めて考え、大切さを感じてほしい」ので、子どもたちと命について考えた体験を聞いてみたいと語った。そこで、他の保育者が自分の体験を話していった。

その話を聞く中で、B先生は「私、振り返ってみると、(一人で担任したクラスでは)飼ったことない」「なんで飼うってならなかったんだろう」と語った。他の保育者の話を聞きながら自分の保育についても振り返り、B先生の中に生まれた問いを聞いて、筆者は「貴重な問いですね」と応えた。

3-3 第3回園内研修（11月）

B先生は、砂場で樋に水を流し、様々なことを考え試して遊ぶA男の姿を取り上げた(【事例3】)。そして、同じように水を流す場面を見たというA先生の話の聞いて「ほんとね」と感心し、「見るポイントがすごいな」と思ってこの記録を書いたと語った(下線部)。「環境構成」には、ここでは「偶然トンネルのようになった」が、「次にそういう場面があった時」には「試しながら実現していく体験」ができるように「樋が傾くのに使えそうなものを近くに置いておく」と考えていた(下線部)。そして、実際に用意した椅子と机を使って、A男がC男と一緒に樋に水が流れるように工夫して遊ぶ姿を捉えていた(下線部)。

【事例3】第3回園内研修から（3歳児クラス担任B先生の記録をもとにした話し合い）

<p>取り上げた理由 ぼぼちゃんの話(事例1)があったA男のこんな姿もあると知ってほしいと思った。(話し合いのいきなり言及なし)</p>	
<p><記録> 10月13日 A男「楽しい水流し」 (写真：A男が砂場に樋^注をつなげて水を流している場面)</p>	
S 子どもの姿	<p>A君はいくつかの樋を使って水を流して遊んでいる。(中略)何度か水を流しているうちに今度は片手で砂をにぎって、樋に置いてから水を流して遊ぶようになった。水で砂が流れる様子を見ては「砂が流れた」「水をやったら砂があっちまていったよ」と話すA君。「水流しー!」と笑顔で遊んでいる。</p> <p>次に、樋をもう一つ取り出して(中略)直線上に置いて水を流してみますが、最後の樋が斜めになっているので、水が戻って漏れてしまう。保育者が「水がこっちにっちゃうね」と声をかけると、A君は最後の部分の樋を今度はL字になるように置く。</p> <p>また水を流すが、水が最後までうまく流れない。それを見てA君は、樋の向きを変えようとする。</p> <p>(中略)向きを変えるを繰り返しながら「難しい」とつぶやく。そうやっているうちに、A君が持っている樋が、(もう一つの)樋の上に倒れた。それを「トンネル」と言うA君。水を流して「(水が)トンネルの下を通った!」と嬉しそうに話すA君であった。</p>
O 読み取り	<p>最初は水を流すことと水が流れるのを見ることに楽しさを感じているようだった。そうやって遊んでいるうちに、水が流れる様子が具体的に分かるように砂を使いだした。(中略)樋の向きに注目してからは、水がうまく流れるように向きを変えて試していた。なかなかうまく水が流れないことに対して「難しい」と話す(中略)どうしたらいいか考えていたからこそ出てきた言葉であると思う。今回はたまたま手から離れた樋が、(もう一つの)樋の上ののって、それをトンネルのように見えたことがA君の中で納得できたものになった。A君は時々樋を使った遊びをしている。少しずつ樋の長さが長くなっているような気がする。</p>
A 願い	<p>今回は樋の向きをどのように置いたらいいか悩んでいるうちに、樋が手から離れて偶然トンネルのようになったが、<u>次にそういう場面があった時に試しながら実現していく体験をする。</u></p>
P 環境構成	<p>一緒に考えていく姿勢で関わる。<u>樋が傾くのに使えそうなもの(いす・台など)を近くに置いておく。</u></p>
<p><記録をもとにした話し合いから></p> <p>A：(自分が見た時は)A君が、B君とD君と一緒に樋を繋げてて。それもL字にしてたんですよ。受け止める側が下じゃないといけないけど、それが上になってたら(水が)下に流れてて。A君が「これ、なんか変だね」って言って。「A君なんで変なの?」って聞いたら、「ここが反対だから変なんだよ」って言って。A君の中で経験が何回かあるんだろうなって。</p> <p>B：ほんとね。水を流して遊んでるってのは、よく他の子どもでもあるけど。砂を置いて水を流すっていうのが、見るポイントがすごいなって思って書いたんですけど。その時は、そうしてなかった? A：してなかったです。</p> <p>B：だから、いつのタイミングで、そういうふうなことを思いついたのか、ちょっと分からないんですけど。</p> <p>園長：偶然じゃないもんね。ちゃんと意志を持って入れてるってところがね。樋があるゆえの面白さだよ。</p> <p>B：スタート地点にやかんを下に置いて、斜めに。 A：(どんぐりを転がしていた時は)A君がやったって言って、すごいちゃんと</p> <p>C：考えてる。B：坂道を上手い具合に 園長：作ってるんだね。B：周りにあるものを利用して 園長：使ってね。C：アイデアが面白いですね、A君。(中略) B：後日、椅子を机を置いてみたら、C君とA君が椅子をこう(樋の下に)やったりして。</p>	

注) 樋：砂場での遊びに用いている。塩化ビニール製で、筒が半分になっていて流した水の流れが見えるようになっている。

第1回園内研修の記録には、「来月も同じように活動をやってみて」「様子を見ていきたい」と書いてあった（【事例2】下線部）。しかし、ここでは桶を使って水を流すA男の姿から読み取ったことをもとに「願い」が生まれ、具体的な環境を用意してみて、そこで遊ぶA男の姿をさらに見ようとしていることがわかる。

この頃には、他の保育者からも「偶然」「きっかけ」という言葉がよく出てくるようになった。筆者は園内研修の最後にそのことにも触れ、子どもが面白いと思っていることを捉えていること、子どもの成長や経験のつながりも語っていることに保育者の変化を感じたことを伝えた。保育者同士で言葉をつないで話し合うことも増え（下線部）、さらに互いの話を聞きながら考え合うようになったことの表れと考えられた。

3-4 第4回園内研修（2月）

B先生は、自分が作った物を持って「これ飾りたい」と言いに来たC男の姿を取り上げた（【事例4】）。B先生はC男の思いに応じて、大きなダンボール箱の側面を切って平面にしたものを壁に貼った。そして、C男が作った物をそこに貼り、さらに作った物を貼ったり絵を描いたりする姿、そこに加わったE男とこの遊びを楽しみ、「町」を作る姿も見守っていた。B先生はそれまでの園内研修をもとに、C男の遊びが「進んでいく様子が視覚的に」わかるようにという思いから、この環境を用意したと語った（下線部）。

C男とE男は園内研修当日もこの遊びをしていた。B先生は、C男が「ハンコ」を作り、「ハンコ」を押したら入れると言っていたとも語っていた。このC男の姿もふまえ、参加する子どもが増えると、遊びが変化して面白いかも知れない、クラスみんなに紹介してみるのもよいかも知れないと話し合った（下線部）。

【事例4】第4回園内研修から（3歳児クラス担任B先生の記録をもとにした話し合い）

取り上げた理由	C男の感性や友だちとの関わりが素敵と思ったから。
話し合いのしこ	子どもが飾りたいと言ってきた時、どうしているのか。
<記録> 2月14日 C男「これ飾りたい」 （写真：C男とE男が壁に貼られたダンボールに、マーカーで絵を描いている場面）	
S 子どもの姿	作った作品を持って、保育者に「これ飾りたい」と言いに来たC君。保育者が（中略）ダンボールを出して飾れるようにすると、C君は作品を貼って「これは電車なんよね」と言う。（中略）他の作品2つも貼り、「これは電車が停まる場所なんよ」と話していると、E君がやってきて「E君も自分が作った作品（お弁当）を貼りたい」とC君に言う。最初はそれは嫌だと返事を返すC君だったが、E君が（中略）貼ると「お弁当はこっちに貼って。こっちなら食べられるから」と伝え、いっしょに遊ぶようになる。 （中略）「あ！こうしたらいいんじゃない？」と（中略）上側だけにテープを貼り、「お弁当食べたらこうやってしたらいいんよ」と（中略）めくって裏返すといふことを提案する。電車とホーム、お弁当のイメージからか、C君は「町をつくらうかな」とつぶやく。 自分がマーカーを持ってくると、E君にもマーカーを持ってきてと声をかける。（中略）そして、（中略）「E君は何描きよるん（描いてるの）？」と質問したり、E君が言っていることに「そうなんやね〜」と返事を返したりしながら遊んでいた。
O 読み取り	（前略）作ったものを飾りたいと言って来たので、保育者はダンボールに貼り付けて飾るのはどうかと考え、提案した。それを貼り付けると、（中略）いろいろな話をしながらダンボールに作ったものを貼ったり、描いたりし始め、町づくりに変化した。 途中からは、E君がかわったことで自分の作りたいものやE君にしてほしいことを伝えたりしながら、始終なごやかな雰囲気を楽しんでいたのでは。
A 願い	最終的にはどうなっていくのか見ていきたい（継続するのか、何に変化するのか）
P 環境構成	ダンボールを加えていくことで、さらに町が広がっていくのでは
<記録をもとにした話し合いから>	
N：その後は？ B：ダンボールを加えると、大きくなったから「わー！」みたいな。そしたら、E君と遊んでたからか、E君に声をかけたんですよ。 D：普段だったら、誰に声かける？ B：誰でも。仲が深いって言ったらD君かな。	
B：（今日は）お片付けの時間になっても、これがここにあるから、これ何？と思ってC君に聞いたら、「作りたい人はこれでハンコ押す。したら作れる」「動かしちゃだめ」って言って。（椅子の上にC男が作った「ハンコ」がある）	
N：作る人の、OKのハンコ？ B：はい。 N：今、二人だけなんですか？ B：（A先生に）今日やった？	
A：今日はA君を誘ったら、「いや、ぼくはやらないよ」って。違うことをするからやらないって。	
N：今までは、他の人が入ったことはあるんですか？ B：いや、入ってない。 D：魅力があるのにねえ。楽しそうなのに。	
B：まあでも、「C君とE君」みたいな。 D：二人の世界観があるのかねえ。	
園長：C君ってやっぱりいろんなことできるし、知ってるから。憧れのある思いもあって。多分C君の言うことは、やれば楽しいだろうとか、いいなって思う気持ちはすごく大きいかなって。 B：それはあります。ちょっと、クラスのリーダー的存在。	
園長：去年も一年間、ほぼ満3歳児で入ってたので、経験値がね、すごくある。	
B：ただ貼るとかじゃなくて、それこそ、めくったら（お弁当を）食べ終わるとか。 D：ストーリーがあるよね。	
N：これって、そのまま、ずーっと続けられるのがいいですよ。	
B：（遊びが）進んでいく様子が視覚的についていうお話もあったりしたので、見てやれりゃいいかなと思って。	
N：二人の世界でやってたけど、参加者が増えたら大丈夫なんですかね？受け入れないという人ではない？ B：ではないですね。	
園長：人が増えるとまた、面白い。変化してくるかもね。 N：これって、みんなに紹介したりはされてないんですか？	
B：紹介してないです。 園長：紹介したらいいかも知れないね。	

A先生は、できることも諦めたり、口調も強かったD男が最近変わってきたと感じており、困った時にすぐ周りに助けを求めた姿、それにすぐC男が応えた姿が「素敵」だと思った場面を取り上げた（【事例5】）。そして、子どもがこのブロック遊びのどんなところに魅力を感じていると考えるかを聞きたいと語った。

D男には「武器」を作っている印象があったというD先生に、A先生は最近高く、長くすることしている様子を語った。話し合いの中で、A先生が聞きたいと語ったこのブロックの魅力について、他の保育者は子どもの側から考えたことを語っていた（下線部）。

この日の園内研修に参加して、話し合いを聞いていた園長は、この機会に3・4歳児クラスにあるブロックで子どもたちがどのように遊んでいるのか、十分に楽しめていると言えるのか等、気づきがあれば聞きたいと尋ねた。そこで、3・4歳児クラスにあるブロックだけでなく、5歳児クラスにあるブロック、預かり保育の部屋にあるブロック等、具体的に挙げながら、そのブロックの特徴と子どもの遊び方について振り返り、一緒に考えていった。このことは、子どもが遊ぶ姿をもとに保育環境について改めてみんなで考え合う貴重な体験となった。

園長は、事前に記録を読んでD男に対する自分の印象との違いを感じ、A先生と話をする、自分の考えをきちんと言葉にして伝えてくれて納得でき、随分言葉して伝えられるようになったと思ったとも語っていた。その体験をふまえて、A先生はこの日「取り上げた理由」を丁寧に語っていた（下線部）。

【事例5】第4回園内研修から（3歳児クラス担任A先生の記録をもとにした話し合い）

取り上げた理由	D男が周囲に助けを求めたこと、C男がすぐに応えたことの2人の関わりが素敵だと思った。 <u>記録に加筆した上記の理由に加えて、「できることも諦めたり、口調も強かったりすることが多かったが、友達との関わりが穏やかになり、口調も柔らかくなったと思ったから」と語る。</u>
話し合いのしこ	子ども達はブロック遊び ^(注) が好きだが、どんな所に魅力を感じていると思うか。
<記録>	1月30日 D男「誰か助けて〜」（写真：D男が長くつなげたブロックに、C男が手をそえている場面）
S 子どもの姿	(前略)D君は(中略)今日はブロックをひたすら縦に長く繋げていた。青が大好きなD君はたくさん青を使って長く繋げていて、(中略)「先生、見て!D男よりめっちゃ長い!」と嬉しそうに保育者に見せてくれた。そしてさらに高く繋げようとして一生懸命手を伸ばしたが届かず、高く繋げていたブロックがゆらゆら揺れた。「やばい!ねえ誰か椅子持ってきて!」と大きな声で言うD君。近くでブロックをしていたC君は、すぐにD君のところにきて、上の不安定な部分を支えた。D君は「あー助かった!ありがとう!」と言い、C君はD君が繋げようとしていたブロックを高い位置に繋げて、C君は安心した表情で満足げにしていた。
O 読み取り	ブロックが崩れそうになると、すぐに自分から声を発して助けを求められたD君が素晴らしいと思った。(中略)大きな声で助けを求めたことで、近くにいるC君がすぐに手伝ってくれて、長く繋がられたという達成感に繋がったと思う。とっさに「椅子持って来て!」と周りに助けを求めたことから、椅子があることで上のブロックを安定させることができるかとD君の中で考えがあったんだと思う。大好きな青を多く使って高く繋げていたところに、D君なりのこだわりを感じた。
A 願い	遊びの中で友達とコミュニケーションをとり、助け合ったり協力したりしてお互いの良さに気付く。
P 環境構成	遊びの中で自然に友達との関わりが生まれることが多いと思うが、紙コップやブロックなどで必然的に友達との関わりが生まれる遊びを提案してみる。
<記録をもとにした話し合いから>	
N：どんな所に魅力を感じていると思うか。一般的にというよりは、D君ががついていうところからがいまいかなと思います。	
D：D君よくブロックしてるよね。バンバンとかって、武器みたいのを作ってる印象がある感じだけ。	
A：一時期はポケモンをすごい作ってたんですけど。最近は高さとか、長さ。すごい長いのを作って。	
E：やっぱり、繋げたら繋げるほどどんどん高くなるし、どんどん長くなるし。ここからは、すごく魅力を感じてるのかな。	
N：このブロック、いろんな組み合わせができる？	
B：全部同じ形なので。いろんな形にできるかって言われたら、そうではないと思います。	
D：繋げやすいかもね。 A：そうですね。 D：高くとか長くとかってというのは、やっぱりやすいかもね。	
C：たくさん繋げることで段々と大きくなって。自分の中で思い浮かべながら作るのがすごく楽しいのかなってのは感じます。	
園長：(3・4歳児はうさぎブロックの遊びで十分楽しめているか等) 気づきがあれば、この機会に聞かせてもらおうと思って。(3・4歳児のうさぎブロックでの遊び、5歳児のブロックでの遊び、それはブロックのどのような特徴からか、話し合う)	
D：そうすると、崩れないとか、より頑丈な物ができるのが面白いのかな。でも、作るものが偏るのかな。 B：そうですね。	
N：ブロックで子どもたちにどういった遊びをしてほしいか、どういった経験をしてほしいかというところで。経験が偏っているっていうのが、もしかしたらあるのかも知れない？	
D：平面では繋がらないから、線路にするとかはないよね。預かり(保育室)にある平面でも繋がられる物とかは、線路に見立てたり、道路に見立てたりして、町を作ったりとかってというのは、あるんじゃないのかな。	
N：ブロックだけ見ても、そういうふうには比べると、また分かりやすいかも知れないですね。	

注)ブロック：うさぎブロック。ポリエチレン製で組み合わせて遊ぶ。うさぎに見え、顔も描いてある。赤青黄緑白の5色ある。

3-5 第5回園内研修(3月)

第5回では、二年間の園内研修について振り返り、事前に作成したレポートをもとに、自分の変化や課題について語ってもらった。また、園内研修で考えたことをもとに、実際に環境を構成してみるとどのような子どもの姿が見られたかについても筆者が尋ね、語ってもらった。

その内容の一部について、A先生とB先生が語ったことを中心にまとめる。

3-5-1 二年間の園内研修を振り返って

(A先生)

- 初めは、こういう意見で合っているか、間違っただけを言っていないかとためらいがあったが、話しやすい雰囲気だったので、回数を重ねるうちに、自分の思いを話すことが楽しくなった。他の先生の意見を聞き、こんな見方があるんだと発見するのも楽しいと思えるようになった。
- 今後は、普段の保育も語り合えるようにし、自分も積極的に発言していきたい。
- アドバイスをもらい、試して、その後どうだったのかを自分から伝えるというサイクルを意識して実践したい。適切な言葉で分かりやすく伝える力も身につけたい。

(B先生)

- 改めて環境の重要性を感じた。その日の子どもの姿だけではなく、その前後の姿も含めて、どのような学びをしているのかを読み取って考えるようにもなった。
 - 筆者から質問されて答えたり、他の先生達からも意見をもらうことで、自分では見てなかった子どもの姿や自分が思ってもいなかったことを知り、もう少し深く読み取っていこうと思うようになった。
 - 今後の研修でも、みんなが自分の意見を言いやすい雰囲気を作り、話を交わすことで、色々なことを知ったり、色々な人の考え方に触れられるようにしたい。
 - 聞くことで相手もまた振り返ってみたり、具体的に知らせてくれたりして意思疎通ができていくので、話を聞いて分からないことはすぐに質問していきたい。
 - 継続的に一人の子どもを追ったり、一つの環境についてどうしていくとよいかを考えることもしたい。
- (他の保育者から)
- 学んだことを実践に移すことが十分にできていなかった。今後は実際に環境を変えて確かめていきたい。
 - その後のことを話す時間があまり取れていないので、時間を設けて共有できるようにしたい。

3-5-2 園内研修後の保育と子どもの姿

(A先生：A男の記録をもとに考えた赤ちゃん人形やごっこ遊びについて：【事例1】)

- 2体あるうちの1体の人形の髪を結び、ピンでとめると、「こっちの方がかわいい」と人気だった。A先生が人形の髪を結ぶのを見て、自分もやりたいという子どももいた。この人形が大すきで、新聞紙のお風呂呂に入れたりして、ずっとお世話をしている子どももいた。
- A男は次第に廃材で遊ぶことが多くなり、やりたいことが変わってきた。

(B先生：C男の記録をもとに考えた「町」を作る遊びについて：【事例5】)

- この記録を取り上げた園内研修の日にC男が「ハンコ」を作ったが、それがいつの間にか3つになり、3つの椅子に置かれていた。本人に聞くと「わかりやすいから」と言っていた。しかし、その後も他の子どもは参加しなかった。
- (D先生は「わかりやすくてことは、来てほしかったのかね」と尋ね、筆者も「やってもいいって場所をわざわざ作るってことは、どうなんだろう」と尋ね、B先生がどのように考えていたか語ってもらった。)
- 「ハンコ」を用意したことが、他の人も「ウェルカム」ということなのか、E君と二人でやるための道具の一つなのかわからなかったが、二人の世界を楽しむにはそれでよいのかなと思っていた。
- (その話を聞き、筆者はC男が「ハンコ」を作ったことをどのように読み取るかで、援助がまだ違ってきたのではないかと伝えた。)

3-5-3 今後の方向性

保育者の話を聞き、筆者は最後に今後の方向性の例として、以下のことを伝えた。

- 時間的余裕がない日々の保育の中で、どのように考え合う時間を作るかを考えていく。

- 記録に写真を活用しているので、遊びや環境についても記録すると、その変化も確認できる。子どもの姿を写真に撮る際に、少し引いたところから周りの環境も含めて撮るとどうか。
- そして、保育後にその中から一枚でも紹介すると、遊びや環境についても考え合うことをしやすいのではないか。特に外遊びの環境は、互いに見ていることも多いので、話しやすいのではないか。
- 一人一人の子どもについて「読み取り」をして語る力は確実に持っているので、今後は遊びの環境についてさらに考え、子どもたちの興味を捉えてどのような環境を作るかを考えること、その環境の中で子どもの姿をもとにさらに考えていくことを大切にするとよいのではないか。

3-6 次年度に実施したインタビュー

この園内研修を実施した次年度の1学期後半（7月）に、保育者へのインタビューを個別に実施した（所要時間は30分程度）。その中で、子どもの「素敵だな」「いいな」と思った姿や、子どもの姿をもとに環境構成をして、子どもがより楽しく遊んでいた、子どもの姿に変化があった、よかった、と実感した場面について語られたこと（一部）を以下にまとめる。

【A先生（引き続き3歳児クラス担任）】

（子どもの姿をもとに環境を用意して、子どもがより楽しく遊んでいた、子どもの姿に変化があった、よかった、と実感した場面）

- ある男児がブロックで遊んでいたことから、ブロックで何かみんなで作ろうということになり、お城を作ったが、高く積み上げていくと、ポキッと折れたりして、なかなか完成しなかった。積み上げることがすごく楽しかったようなので、それを何か別のことでできないかと思い、廃材を積み上げるゲームを試みた。すると、いつもはこのような遊びと一緒に参加しないことが多い子どもも含め、みんなとても楽しんでいた。
- ドキュメンテーションについての本を読み、子どもたちの遊びを写真で記録し、保育室に掲示してみると、写真を見ながら「こうやって作ってたよね」と言って作る子どもの姿が見られた。このような記録を子どもが見ることは、すごく意味があると感じた。

【B先生（次年度は5歳児クラス担任）】

（子どもたちの「素敵だな」「いいな」と思った姿）

- 生き物を捕まえようとしていた男児たちがカナヘビを捕まえ、相談して飼育することになると、毎日積極的に水替えをしていた。やはり、こちらが何をやるのではなく、生き物がそこにいるだけで、子どもたちが責任感を持っているいろいろな行動を起こしたりする。
- 生き物の話をすると、それまであまり話さなかった子どもも含め、集まりでの発言が活発になった。
- カナヘビが好きな気持ちが高まっていたので、絵も描いてみると、カナヘビの特徴をよく捉えて描いていた。生活に密なことは、表現をどんどんしていく姿がすごくあると改めて感じた。

また、B先生はインタビューの最後に、C男が遊びの中で「ハンコ」を作った時に「わかりやすいから」と言ったことについての自分の捉え方が、D先生や筆者の捉え方とは違っていただけにも触れた。そして、自分でもう少し深くC男の内面を理解すると、遊びが変わっていたのかなと少し後悔があると語り、意見をもらって、そういう見方もあるのだと一番感じた機会でも、すごく良い時間だったと語っていた。

4. 本研究の成果と課題

前年度に取り組んだ園内研修の課題もふまえて特に考慮した点を中心に、本研究の成果と課題をまとめる。

- ①「読み取り（O）」から「願い（A）」「環境構成（P）」を具体的に考えて言語化できるように、「A（願い）」について記録に書いたことをもとにさらに丁寧に語ってもらい、筆者が理解したことも言葉にして確かめ、その内容もふまえて「環境構成（P）」についてさらに一緒に考えていった。その中で、自分の「願い」がより明確になり、「環境構成」についても具体的に考えられるようになっていった（【事例1】）。

保育者同士で質問し合うこと、理解したことを確かめることも増えていった。話し合いに参加していた園

長による問いについて話し合うことも、保育の本質的なことについて改めて考え合う機会になった。

園内研修の中で、子どもの捉え方について他者との違いに気づいたことがよい経験だったと語る保育者もいた(次年度実施のインタビューでのB先生)。この保育者は、他の保育者の問題意識にそった話し合いの中で、直接的な「具体化を促す問い」がなくても自分の保育について振り返り、そのことが「本質的な諸相への気づき」に至るきっかけにもなっていた(第2回園内研修でのB先生)。そのことは、次年度の保育にもいかされていることが窺えた(カナヘビをクラスで飼育することでの保育と子どもの変化)。

②園内研修と日々の保育が循環していくように

園内研修をもとに実際に環境構成をして、子どもの姿をもとにさらに考えること、その内容を保育者同士で共有する時間の確保が課題となった。短時間でも継続して取り組める内容と方法を考える必要がある。

③記録の写真について工夫できる点を考えられるように

今回の園内研修でも十分な話し合いはできなかったが、一つの方法として、遊びや環境の記録としても写真を撮り、検討していくこと、そのために記録に活用する写真を撮る際に、少し引いてそこでの環境も含めて撮ることを提案した。この成果を確かめるまでには至らなかったが、次年度に子どもたちの遊びを継続的に写真でも記録してドキュメンテーションを作成し、このことが子どもが自分の遊びに取り組む上でも意味があると実感した保育者もいた(次年度実施のインタビューでのA先生)。

おわりに

今後は本研究の成果と課題をふまえて、より多くの園でも取り組みやすく、保育の言語化促進が期待できる園内研修の進め方についてさらに検討し、他園でも実際に取り組んでいきたい。

謝辞

本研究にご協力いただきました幼稚園の先生方に心よりお礼申し上げます。

付記

本研究は、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)「子どもの姿に基づく保育プロセスの言語化促進のための支援についての研究」(課題番号22K02407)の助成を受けている。

引用文献

ベネッセ教育総合研究所(2019):第3回 幼児教育・保育についての基本調査。

河邊貴子(2019 a):「驚き」や「喜び」を記録し、子どもの育ちを読み取って、次の援助につなげる, ベネッセ次世代育成研究所, これからの幼児教育, 2019年春号, 2-5.

河邊貴子(2019 b):保育の計画につながる保育記録とは—SOAP記録が促す「理解から援助へ」の過程—, 子ども学, 7, 141 - 160.

Korthagen, F. A. J., Koster, B., Lagerwerf, B. & Wubbels, T. (2001) Linking practice and theory: The Pedagogy of Realistic Teacher Education. Routledge. (武田信子監訳(2010) 教師教育学:理論と実践をつなぐリアリスティックアプローチ 学文社)

中島寿子(2023):SOAP記録を活用した園内研修による保育プロセスの言語化促進, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 56, 253 - 262.

幼児教育の実践の質向上に関する検討会(2020):幼児教育の質の向上について(中間報告)